

令和2年度 学校評価（中間評価）

本年度の重点目標	<ul style="list-style-type: none"> ○児童生徒の主体的な活動の推進及びその指導法の改善 ○保護者や関係機関との連携に基づく教育の充実 ○地域のセンター的機能の拡充 		
	重点目標	具体的方策	中間評価
総務	<ul style="list-style-type: none"> ・職員の分かりやすい駐車方法と駐車場の整備 ・行事における保護者の本校敷地内への駐車の実施と改善 	<ul style="list-style-type: none"> ・年度始めに駐車方法のプリントを職員に配付し周知する。 ・定期的に全体又は個別に駐車の方法について説明する。 ・駐車場の白線引きと通用門付近の看板の整備をする。 ・行事ごとに駐車方法の案に沿って実施する。 ・反省を出してもらい、次の行事又は次年度に生かす。 	<ul style="list-style-type: none"> ・年度始めに職員向けに駐車方法について説明を行った。感染症防止対策や校舎改修工事の関係で、日替わりに近い駐車方法を職員にお願いしている状況である。 ・看板等の整備は順次行っている。 ・大きな行事が中止となり、昨年度の反省を受けた計画を実施できていない。今年度、残る行事についても分散型等で実施される。また、改修工事の影響で来年度の参考となるかは分からない。
教務	<ul style="list-style-type: none"> ・新教育課程の検証及び検討 ・新学習指導要領を基にした指導と評価の一体化を図る 	<ul style="list-style-type: none"> ・今年度から小・中学部において自立活動の時間における指導が実施されるため、実践の検証、課題や問題点の整理及び検討を行う。高等部においては、自立活動の時間における指導の実施に向けて、昨年度に検討されたことを基に試行を行う。 ・昨年度に引き続き重複障害学級の教育課程の見直し及び検討を行う。より児童生徒の教育的ニーズに応じた教育課程の編成を目指す。 ・個別の指導計画（通知表）と指導要録に観点別評価の記載ができるように検討する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・各部において自立活動の流れ図、年間指導計画を作成した。今年度からの作成になるため、記入の仕方やチェック方法等、自立活動部と連携し、検討する必要がある。実践の検証については、各部で指導体制や指導内容、活動場所の確保等の諸課題について検証を進めている。 ・小学部では、1時間目の後半から自立活動の時間における指導の試行を行っている。今後、指導体制や児童の様子等を検証し、児童の実態に応じた教育課程の編成の検討を進める。中学部では、来年度以降の教育課程編成を見据え、合わせた指導の時間数や指導内容及び自立活動の時間数等の検討を引き続き進めている。高等部では、重複障害学級において、教科別の指導（音・美・体）から自立活動への変更を見据えた試行を継続中である。また、小・中・高の系統性を考えた、重複障害学級の教育課程という観点から、各教科等を合わせた指導の時間数について検討に入った。小・中と連携を図りながら、よりよい教育課程を追究していく。 ・小学部が今年度から通知表に観点別評価を記載するため、個別の指導計画の目標設定から観点別評価の観点を記入した。年度末の通知表や指導要録への記入がスムーズにできるように職員へ学習評価の趣旨を説明し、周知していく。中学部と高等部は、来年度以降に順次実施するため、準備・検討を進めている。
生徒指導	<ul style="list-style-type: none"> ・安全な通学環境の整備 ・防災体制の充実 ・いじめの防止 	<ul style="list-style-type: none"> ・SB6コースの安全管理、運行の適正化に努める。（緊急時の対応、経路・タイヤの調整） ・自力通学生の通学経路の把握と交通安全指導を徹底し、事故防止に努める。 ・マニュアル及び訓練により、災害時の職員の対応、役割を周知する。 ・地域住民の方に防災訓練を参観・参加していただくなど、地域との連携を図る。 ・いじめ防止基本方針の共通理解を図る。 ・学期ごとに各学年へ実態調査を行う。高等部生徒を対象にいじめに関連したアンケートを実施する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・新型コロナウイルス感染症対策のため、バスを増発して運行している。おおむねスムーズに運行できているが、増発が延長することとなり、添乗職員の負担軽減等の対策を考えていく必要がある。 ・定期的な登下校指導、自転車通学生に対して交通安全教室を実施した。事故に遭わないとともに事故後の対応もできるよう指導していく。 ・新型コロナウイルス感染症の影響で、年度当初の計画から変更をして訓練を行った。反省を踏まえ、来年度に向けてマニュアル及び訓練の整備を進める。 ・新型コロナウイルス感染症に考慮しながら地域との連携を取れるよう進めていきたい。 ・年度初めの職員会議で、いじめ防止基本方針についての周知を図った。 ・年2回、いじめに関連するアンケート調査を行い、把握に努めている。アンケートの回答によっては個別の相談を行う。
進路指導	<ul style="list-style-type: none"> ・組織図的なキャリア教育の推進と充実 ・地域との連携と充実 ・産業現場等における実習の充実 	<ul style="list-style-type: none"> ・進路講話会等、保護者に向けた進路情報内容の充実のため、各部の保護者の要望に沿った話題を精選し、設定する。 ・職員に対して、本校の進路指導の流れや進路指導に関する意識、知識の向上を図る。 ・他分掌や関係諸機関との情報交換を密にし、児童生徒に対する支援体制を強化する。 ・新体制での実習開始に向け、早期からの進路指導に向けて、実習先との連携、校内での指導の充実を図る。 ・雇用予定のある企業の新規開拓、仕事の切り出しを積極的に行い、生徒とマッチングできる職種を増やす。 	<ul style="list-style-type: none"> ・進路講話会は新型コロナウイルス感染症対策のため、今年度は中止。実習説明会の際に追加で話したり資料を配付したりしたが、保護者への情報提供が不十分で、担任・保護者間や職員間での共通理解ができていないこともあった。制限のある条件下でも有効的な情報発信の仕方を考えていきたい。 ・可能な限り関係機関との連絡会に参加し、情報交換を行えた。また、各市町の福祉課や相談支援員と、次年度以降の講話会や保護者への懇談会計画等の相談もでき、支援体制や協力体制を確認できた。 ・高3生徒の進路に関して大きな影響は受けていない。雇用に向けては、学校職員の新規開拓に加え、関係機関との情報交換により複数の事業所とのつながりができた。今後、中小企業からの求人も期待されるため、更なる開拓、仕事の切り出しに力を入れていきたい。
保健体育	<ul style="list-style-type: none"> ・児童生徒の健康づくりの推進 ・安全教育の推進 ・安全環境整備 	<ul style="list-style-type: none"> ・保健室経営の充実を図り、学校保健活動の中心としての役割を果たす。 ・緊急対応訓練を通して職員の安全意識を高め、児童生徒の健康の保持・増進を図る。 ・食物アレルギーのある児童生徒について学年・部での共通理解を図り学校生活管理指導表に基づいた対応を実施する。 ・児童生徒の健康観察を徹底し、安全・安心な学校生活が送れるようにする。 ・職員管理場所の清掃の際に安全点検も兼ねて清掃を実施し、きれいな学校づくりを目指す。 	<ul style="list-style-type: none"> ・感染防止対策の一つとして、一般的な体調不良者等と新型コロナウイルス感染の疑いがある児童生徒とを別室で対応できるよう立案し実施した。 ・緊急対応訓練に加え、新型コロナウイルス感染症対応についても職員に説明をして周知を図った。 ・学校生活管理指導表を基に学年・部での共通理解を図り、適切に対応することができた。 ・健康観察カードを個人、学級ごとに作成し健康観察カードの有効的な活用ができています。 ・掃除道具の交換をトイレ、教室でも実施し、過不足の調整が十分にできた。清掃時間に消毒作業を取り入れることで、十分な消毒を行うことができた。
研修	<ul style="list-style-type: none"> ・職員の専門性の向上 	<ul style="list-style-type: none"> ・現職研修の充実を図る。 ・全校研究を円滑に進める。 ・初任研の充実を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・新型コロナウイルス感染症対策として新転任者研修などは、場所、人数など方法を考慮して実施した。改修工事の関係もあるので、今後予定されている研修も実施方法を工夫して行いたい。 ・各部間の状況、進捗など、校務部会において係間で共通認識をもったり、部代表との情報交換を行ったりしている。部によって状況は異なるが、研究の時間を各単位で自立活動の指導の充実のために有効に使ってもらいたい。 ・臨時休業の影響で予どおりに進んでいない研修項目があるものの、指導教員や拠点校指導員と意見交換しながら必要に応じて臨機応変に対応してもらっている。また、次年度に向けて見直した方がよい点があれば、意見を伺っていく。

視聴覚	<ul style="list-style-type: none"> ・視聴覚機器の有効利用を推進する。 ・図書室の円滑な運営を図り、改修工事に対応する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・視聴覚準備室や視聴覚機器を使いやすく整備する。 ・視聴覚機器の更新を進める。 ・破損した蔵書の補修を行う。 ・古い図書を廃棄して、室内のスペースを確保し、改修工事に対応する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・有線、無線マイクなどの音響機器を購入し、行事などに対応できるようにした。今後その他の機器にもラベリングをして、使用しやすくしていきたい。 ・古い図書を廃棄して、図書室の一角に蔵書及び本棚をまとめて改修工事に備えることができた。 ・改修工事後、どのように本棚などを配置して図書室を再開していくかを計画していきたい。
情報	<ul style="list-style-type: none"> ・教員の情報活用技能およびセキュリティ意識の向上 ・情報モラル教育の充実 ・校内情報化推進のための情報管理及び活用に関する分掌間の連携 	<ul style="list-style-type: none"> ・昨年度に導入された新ネットワーク及び新規ノートパソコン等の利用について、有効活用やトラブル等への日常的なサポートを行う。教員のセキュリティ意識を高めるために、資料提供などの啓発に努める。 ・情報モラル教育について、担任や学年、生徒指導部等との連携を密にして進めていく。 ・他分掌等と連携して、タブレット端末の研究と有効利用を進めると共に、機器やネットワークの整備に努める。 	<ul style="list-style-type: none"> ・新転任職員のノートパソコン等の設定やプリンタも含めた機器の利用に際して、適切なサポートができた。また、在宅勤務の際の情報機器の使用に関して、セキュリティ面の対策や注意喚起を行った。 ・保護者や生徒に向けた情報モラルアンケートを実施した。アンケートの結果を保護者に紙面で配付し、家庭での協力を呼びかけた。 ・新型コロナウイルス感染症対策の臨時休業中に、動画教材のインターネット配信を行った。視聴覚部や自立活動部と連携して、迅速な対応が出来た。 ・国や県が進める「GIGA スクール構想」に係る機器やネットワークの整備に適切に対応し、職員に周知を進めていく。
地域支援	<ul style="list-style-type: none"> ・校内支援の充実 ・センター的機能の向上 	<ul style="list-style-type: none"> ・相談支援に関する専門性の向上に努め、自校児童生徒への支援につながるようにする。 ・関係機関と連携しながら、高等部生徒教育相談の充実を図る。 ・地域の小・中学校の保護者や教員を対象に、たんぽぽ相談や巡回相談、研修会等を実施する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学校だけでは解決が難しい問題に対し、スクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカーを活用することで、専門的な支援を受けることができた。今後も担任個人だけでなく、関係職員や専門機関がチームで支援することができるような体制を整えていきたい。 ・自立支援協議会の情報交換会や、相談支援事業所の研修会に参加し、地域の関係機関との連携を深めた。 ・たんぽぽ相談は、新型コロナウイルス感染拡大防止のため、電話相談で対応し、夏季の出張相談のみ対面で行った。今後も感染状況に応じて方法を工夫しながら、より多くの相談に応えられるようにしたい。地域の小学校の巡回相談は、規模を縮小することはあったが、例年並みの実施を行い、障害特性に応じた支援の仕方や手立ての考え方を提案した。
自立活動	<ul style="list-style-type: none"> ・学習指導支援の充実 ・教材・教具等の周知と有効活用 	<ul style="list-style-type: none"> ・自立活動の指導内容や支援の方法について、情報を収集、紹介することで、教職員の自立活動に対する意識を高める。 ・実態把握から目標や指導内容設定までの流れを提示し、指導計画の作成手順を共通理解できるようにする。 ・自立活動の教材・教具を研究、整理し、授業等で有効活用できるように紹介する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・自立活動指導内容表「じかつ☆ノート」の見直しを行い、R2年度版の制作中。H30作成版を必要な職員に配付し、自立活動の指導の手助けとなるようにした。今後も定期的に見直しを行っていく。 ・「教材教具展 inPC」の取組として自活コーナーをつくり、各部各学年の自立活動の時間における指導の実践などを紹介できるように計画した。 ・現在、流れ図・年間指導計画の記入方法や作成手順について検討している。まとめ次第、「じかつだより」や「じかつコーナー（掲示板）」で周知していく。 ・教材・教具は、年度当初から新型コロナウイルス感染症対策のため10月まで貸出し禁止してきた。貸出し禁止期間中は、紹介や整理などを行っていた。10月からは、使用前後の手洗いや必要に応じての消毒を徹底し、貸出しを行い、今後も授業に生かせるように紹介していく。
小学部	<ul style="list-style-type: none"> ・基本的な生活習慣や日常生活における基本的な力の育成 ・家庭と連携した安全で安心な支援体制作り 	<ul style="list-style-type: none"> ・児童の発達段階を自立活動のチェックリスト等を活用して捉え、自立活動の時間における指導の効果的な使い方を検証しながら指導を進めるとともに、学校生活全ての場面において、日常生活で身に付けた基本的な力の育成を図る。 ・毎日の健康観察、目を離さない行動観察を継続し、体調不良やけが等の家庭への確実な情報提供や情報収集を図り、安全な支援体制を構築する。 ・児童の情報共有（障害特性や健康状態、家庭の状況等）のために、部会や学年主任者会等を有効活用する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・自立活動のチェックリスト、流れ図を活用して自立活動の年間指導計画を作成した。指導計画を基に各学年とも時間における自立活動の指導を開始した。現在、指導の流れが定着できるように検証や改善を各学年で進めている。 ・部会、主任会、学年会等を活用し、情報共有に努めているが、情報が遅れることもあり、職員全員が意識を高めていくことが必要である。 ・日々の支援の中で体調不良やけがの確認をしっかりと行い、家庭への連絡、学部、学年への情報共有に心掛けている。しかし、防げるけがが発生したり保護者への情報提供が不十分であったりした場面もあり、より注意深い見守りや支援体制の再確認、情報共有、提供が必要である。
中学部	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒全員が「分かった」「できた」「やってみよう」と感じられる授業作り ・基本的な生活習慣の育成及び社会生活を営む上で必要な基礎的な能力の向上 	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒の実態や障害の特性を考慮した教材、教具、補助具を開発したり、環境を整えたりして生徒自身が課題を理解し、落ち着いて取り組めるようにする。 ・食事、睡眠、排せつ、挨拶、衣服の着脱、身だしなみ、ルールや約束事の意識、相手を思いやる気持ち等、基本的な生活習慣の育成を家庭と連携を密に図り、学校生活全般を通して指導する 	<ul style="list-style-type: none"> ・今年度は、新型コロナウイルス感染症対策のため入学式後2か月間の休業があり、各教科及び領域ともに年間指導計画の変更を余儀なくされ、行事等も例年どおりに実施できない現状の中、生徒たちは、想定していたよりもスムーズに学校生活に順応している。様々な授業場面においてICT機器や写真・イラストを積極的に用い、「分かりやすさ」に配慮した学習を展開している。さらに、生徒自身が主体的に授業に参加できるように工夫していく。 ・今年度から時間における自立活動が実施され、個々の実態を的確にアセスメントし、目標や課題を明確にして、指導内容、支援方法を工夫することにより、生徒が積極的に個々の課題を意識し取り組む姿勢が見られるようになった。また、集団におけるルールや約束事を意識した学校生活を送る生徒の姿が、多く見られる。 ・連絡帳や個人懇談等を通して家庭との連携を図り、生徒の実態、支援方法などの情報を共有し基本的な生活習慣の育成・定着を図っている。
高等部	<ul style="list-style-type: none"> ・自立と社会参加を促す力の育成 	<ul style="list-style-type: none"> ・卒業後の生活を見据え、自立活動の視点を踏まえて生徒一人一人の適性に合った指導を行う。 ・学校生活におけるさまざまな行事や活動を通して、基本的な生活習慣の確立を図るとともに、社会生活を営む上で必要な力を身に付ける。 	<ul style="list-style-type: none"> ・今年度、A類型で学習する生徒に、試行として時間における自立活動の授業を週1時間設定した（B類型も1時間増やし3.5時間を設定）。生徒の学習上または生活上の困難を改善・克服していけるよう、自立活動の流れ図を活用して生徒の実態把握を十分に行うとともに、長期目標、短期目標を設定し、卒業後を見据えた計画的な指導となるように進めている。また、設定した目標を各教科等の指導や学校の教育活動全般の指導と密接に関連させ、効果的な指導となるような方策について模索している。 ・普段の学校生活や行事を通して、挨拶や返事、身だしなみなどの基本的な生活習慣について継続的に指導を行うとともに、自己の役割や責任を果たそうという気持ち、好ましい人間関係が気付けるよう指導をしている。今年度については、新型コロナウイルス感染拡大防止のため授業や行事での活動に制限が多いが、生徒一人一人の目標を明確にして取り組むことにより課題を克服し、達成感や次の課題への意欲が引き出せるように進めている。また、自己選択・自己決定できる場面を多く設定し、主体的に社会生活を送るための基礎となる力を育むことにも力を入れている。
学校関係者評価を実施する主な項目	<ul style="list-style-type: none"> ・笑顔のある安全・安心な学校づくり（感染症等に配慮した安全・安心な学習環境、学習保障） ・12年間を見据えた、継続性・系統性を考慮した教育活動の推進（自立活動と各指導計画のつながりを意識した取組） 		

【学校関係者評価を実施する主な項目に対する中間評価について】

項目	中間評価について
<p>笑顔のある安全・安心な学校づくり (感染症等に配慮した安全・安心な学習環境、学習保障)</p>	<p>新型コロナウイルス感染を防止し、新しい生活様式に沿って児童生徒が安全に学習活動を実施できるよう、全職員が一丸となり取り組んでいる。最新の情報を基に保健体育部は校内ガイドライン作成と随時の更新、教務部は授業内容の見直し、生徒指導部はスクールバス運行計画の見直し、情報部はオンライン学習充実に向けた準備、総務部は送迎車両増加に伴う駐車場計画作成、各担任は家庭や事業所と連携し丁寧な健康観察等を行っている。また、個々の職員が指導内容や方法を工夫し、日々の消毒作業により教室環境を整えている。引き続き児童生徒が明るく元気に学べる安全安心な学校づくりに努めたい。</p>
<p>12年間を見据えた、継続性・系統性を考慮した教育活動の推進（自立活動と各指導計画のつながりを意識した取組）</p>	<p>昨年度より継続して自立活動の充実に向け全校研究に取り組んでいる。今年度は、昨年度作成したチェックリストと流れ図を活用しながら授業実践と検証を行っている。個々の児童生徒についての実態把握、目標や指導内容の設定をより丁寧に行えるようになり、授業改善に結びつけることができている。今後は、より個に応じた時間における自立活動の実践ができるよう、さらに研究を深めていく。</p>